サウジアラビアで開催された第14回Saudi Gastroenterology Association(SGA)への参加報告

2015年4月に当院を訪問したサウジアラビアの消化器学会(SGA)の会長であるDr.Majidからの招待で今回2016年1月17日～1月22日までSGAに参加した。場所は首都リヤドにあるAl Faisaliah Hotelで開催された。

学会は2日間の日程で行われた。
1日目は午前中にサウジアラビアの有名病院であるKing Faisal Specialist Hospitalを訪問し、病院内の案内を受けた後、内視鏡センターを見学した。同センターのマネージャーより施設の概要や設備の説明を受けた。特に驚いたのは使用している内視鏡を1本毎にIDを作成し、修理内容や洗浄した日付などを記録し、さらに内視鏡自体の培養検査を定期的に行い感染のリスクがないかを確認していた。設備は当院より劣っている印象はなく、在庫は当院と比較しても多いくらいであった。その後、内視鏡センター長より挨拶を受け、今後サウジアラビアの学会やESDなどのデモンストレーションなどが行われる際は是非参加して欲しいと強調して話されていた。なお、この病院では入院は全て個室であり、大きめなテレビやトイレ、シャワーが完備されていた。サウジアラビア人であれば原則的に医療費がかからず、無料で医療機関を利用できるとのことであった。
午後は学会に参加し、現地の医師だけでなく、ヨーロッパやアメリカ、日本からも参加者がいたが、招待されている医師はいずれも国際的に有名な医師であり、スライドの内容もさることながら、プレゼンテーションが分かりやすく非常に参考になるものであった。
1日目の夜には学会が主催する交流会に参加した。開始時に、サウジアラビアで結婚式などに行われる恒例行事があり、日暮先生と私も呼ばれ、剣を持ちながら足踏みするようなダンスを披露した。

2日目は午前8時から日暮先生が大腸癌と発癌予防をテーマにプレゼンテーションを行い、その後パネルディスカッションで質疑応答する時間があり、日暮医師に対する質問があり質問者と意見交換する場面もあった。
その後、Dr.Majid(SGA学会長)のご好意もあり、部下であるフェローの自宅を訪問させて頂く機会があり、勉強の際に使用している本や問題集などを見させて貰ったが、サウジアラビア国内から出版されている医学書はなく、いずれも海外から取り寄せて購入しているようで、日本のように英語以外で医学を学んでいる国は珍しいのではないかと話していた。また、そのフェローの消化器内科医としての仕事内容も聞いたが、オンコールは毎月5～7回あり吐血や胆管炎、イレウスなどで病院から呼ばれているとのことで、なかなか多忙のようであった。昼食をフェローの家族と済ませ再度、学会会場に戻った。
Dr.Majidから今後も交流を持ちたいと強調して言って頂いた。今年のJDDWに招待者として参加する予定のようで、そこでの再会を約束し、帰路についた。
今回、訪問した病院はサウジアラビアの中でも有数であると思われるが、その設備や規模は日本の病院の中でも上位に入るであろう。ただ、サウジアラビアではまだ医学部も少なく、サウジアラビア人の医師は少なく、大半の医師はヨーロッパ、アメリカ、アジアなどから来ていた。
サウジアラビア国内での医学生の増員、設備の更なる充実、国際交流の機会の増加など、国内の医療レベルの向上に努めたいと考えている現地の医師は多かった。特に消化器内科の分野では日本の医療レベルは非常に高く評価されていることを実感した。
今後もこの教室が、国際レベルで医療の発展に貢献できるよう、努めていきたい。

小宮　靖彦(平成22年卒)